

年間第13主日 2020.6.28

冷たい水一杯

マタイ 10:37-42

「わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりも息子や娘を愛する者も、わたしにふさわしくない。また、自分の十字架を担ってわたしに従わない者は、わたしにふさわしくない。自分の命を得ようとする者は、それを失い、わたしのために命を失う者は、かえってそれを得るのである。

あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れ、わたしを受け入れる人は、わたしを遣わされた方を受け入れるのである。預言者を預言者として受け入れる人は、預言者と同じ報いを受け、正しい者を正しい者として受け入れる人は、正しい者と同じ報いを受ける。はっきり言うておく。わたしの弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける。」

説教

イエスがある反対条件をだしました。それに合格すれば報われると弟子たちに諭しました。

イエスのだした「わたしにふさわしくない者」反対三条件とはこうでした。

1. 父さん母さんを大切にする者
2. 息子、娘を愛する者
3. 死刑の覚悟ができていない者

以上の三つの反対条件を満たす者が「わたしにふさわしい者」つまり、父母を大切にせず、子どもを愛さず、だけど死刑の覚悟ができていない者、それが「わたしにふさわしい者」だ、と。

つづいて、その者たちには褒美として「永遠のいのち」が与えられる、いのちを得ることができると弟子たちに諭しています。

しかし、こう読んでしまうと福音の理解から遠くなってしまいます。この理解のしかたは「○か×のかんがえ方」です。イエスの出した条件をクリアすれば○で、そうじゃなければ×という図式です。実のところ、これは世間の考え方、世の中の一般で通用する考え方です。世間は○と×だけでは窮屈なときは○と×のあいだに△をつけ足したり、5から1の数字で○と×のあいだを刻んだり、それなりに工夫をしてきました。

「○か×のかんがえ方」を飛び越えたイエス福音の神髄はこうです。

はっきり言うておく。わたしの弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける。 マタイ 10:42

水一杯を恵んであげればいい、全員じゃなくてもいい、たった一人だけでもいい、そうすればその人は「必ずその報いを受ける」とイエスはいいました。わたしたちはどうしても○か×かの考え方に縛られます。神さまの教えですら○か×かで受けとめることが多々あります。しかしイエスは○か×かを越えてこういいます「冷たい水一杯」だ。

冷たい水一杯はイエス一流のたとえです。カレーライス一皿でもラーメン一杯でもいいわけです。これならわたしたちにもできそうです。誰かに一杯、一皿をおごる、困っている人に手を差し出す。この気持ちがあって、そしてその気持ちを実行できれば、わたしたちは「必ずその報いを受ける」ことになる、とイエスはいいました。

どうぞイエスをならって「○か×かの考え方」から離れ、そして福音をとおして「得ようとするのではなく、失うことで得られるもの」を、自分自身の中から探し出し、みつけてください。
